

泉大津市文化財調査概要 6

# 古池遺跡発掘調査概要 I

1981.3

泉大津市教育委員会



泉大津市文化財調査概要 6

古池遺跡発掘調査概要 I

1981.3

泉大津市教育委員会

## 例 言

1. 本概要告報書は、泉大津市教育委員会が、泉大津市内に所在する古池遺跡の範囲内において、開発行為に先立って実施した発掘調査記録である。
2. 本調査は、泉大津市が国庫補助事業および大阪府補助事業（総額 5,000,000円、国補助率50%、府補助率25%、市負担率25%）として計画・実施したものである。
3. 本調査は下記の構成で実施した。

調査主体者 泉大津市教育委員会教育長 中辻捨二郎

調査担当者 泉大津市教育委員会社会教育課 坂口昌男

調査員 佐藤正則・楠山享司

調査補助員 岩城 一・太田正康

事務局 泉大津市教育委員会社会教育課(課長 鈴木 実)

4. 本調査は、昭和55年度事業として、昭和55年4月14日に着手し、昭和56年3月31日に完了した。

5. 本書の作成は、坂口・佐藤・楠山が分担し、図版作成には太田が加わった。

6. 本書では、遺物実測図及び遺物写真に共通する番号を付け、本文でもこの番号を用いた。

# 目 次

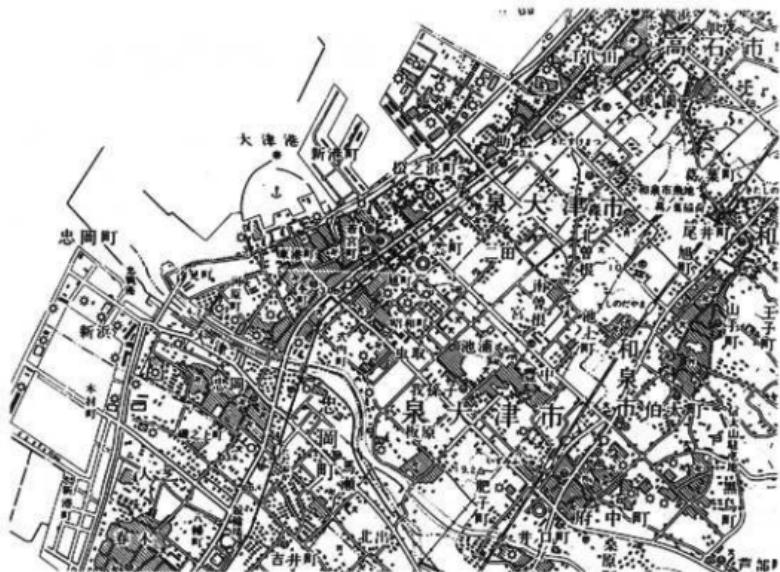
第 1 章 地理的環境	1
第 2 章 周辺遺跡の位置と歴史的環境	2
第 3 章 調査結果	8
第 1 地点	8
第 2 地点	14
第 4 章 まとめ	17
引用文献	18
遺物観察表	19～20

## 挿 図

第 1 図 泉大津市地形図	1
第 2 図 遺跡分布図	3
第 3 図 調査地点図	7
第 4 図 第 1 地点調査区域平面図	8
第 5 図 第 1 地点北壁断面図	9
第 6 図 第 1 地点遺構図	10
第 7 図 第 1 地点建物 1 遺構図	11
第 8 図 第 1 地点出土遺物	13
第 9 図 第 2 地点調査区域平面図	14
第 10 図 第 2 地点北壁断面図	15
第 11 図 第 2 地点遺構図	16

## 図 版

1	第 1 地点 全景
2	第 1 地点 全景・第 2 地点 全景
3～4	第 1 地点 出土遺物



第1図 泉大津市地形図

「この地図は建設省国土地理院発行の5万分の1の地形図を使用したものである」

## 第1章 地理的環境

大阪府泉大津市は、大阪平野の南部に位置し、山間部を有せず、西側は大阪湾、北側は高石市、東側は和泉市、南側は大津川を隔てて泉北郡忠岡町と接している。市内西部を海岸線に沿って、国道26号線や大阪臨海線の道路が走り、又私鉄南海電鉄本線も平行し、北より北助松駅、松之浜駅、泉大津駅がある。急行の停車する泉大津駅から大阪難波へは20分と、非常に近距離にある。市街地はこの路線を軸に形成されている。東部は水田地帯が残っているが、第二阪和国道の開通と、土地区画整理の完成により、宅地開発が徐々に進行している。面積は11.52km<sup>2</sup>、人口は68,473人と小規模であるが、府下で7番目に市になるなど、早くから開けていた。産業は織物工業が盛んで、特に毛布の生産高は全国の95%を占めている。近年、堺・泉北臨海工業地帯として、海岸部が埋め立てられ、カー・フェリーが発着するなど港湾のまちとしても発展しつつある。市の北東部では、農業の他に観葉植物、特に錦糸竹の栽培が盛んであるが、市域全体が市街化区域となっているため、田園地帯もやがてみられなくなるだろう。

(坂口)

## 第2章 周辺遺跡の位置と歴史的環境

古池遺跡は泉大津市内の南東地区に位置しており、北側は豊中遺跡、南側は和泉市府中遺跡に接している。西南側には板原遺跡があり、遺跡の集中地帯である。第2図遺跡分布図を参照。

泉大津は古代において5畿内の1国である和泉国に属し、東接する和泉市府中町に国府が置かれていた。泉大津は小津の浦と呼ばれ、和泉国ではもっとも国府に近い津（港）として栄えていたと思われる。

和泉地域は大和朝廷下の国造制和泉に属しており、8世紀の初めに河内國より和泉国は分離設置されるのである。和泉國の國名の由来は、現在の和泉市府中町から清泉が発見されたことにより、清水の多く出る所と云う意味で「イズミ」と呼ばれたと伝えられている。泉井上神社内的一角に「和泉の清水」として今も残っている。

清水が涌き出るわりには、大河・大池もなく、また瀬戸内式気候に属しているため、農耕に必要な水量を確保できなかった。それは奈良時代において、僧行基が土室池、長土池、久米田池などの数多くの溜池を和泉地域に造っていることでもわかる。水田開発に伴って、農耕に不可欠な水源を確保するために、丘陵部を中心として数多くの溜池が造られたのであろう。しかし近年では溜池の大半は埋め立てられつつある。この古池遺跡においても、古池、要池、上池が埋め立てられてビルが立ち並んでいる。

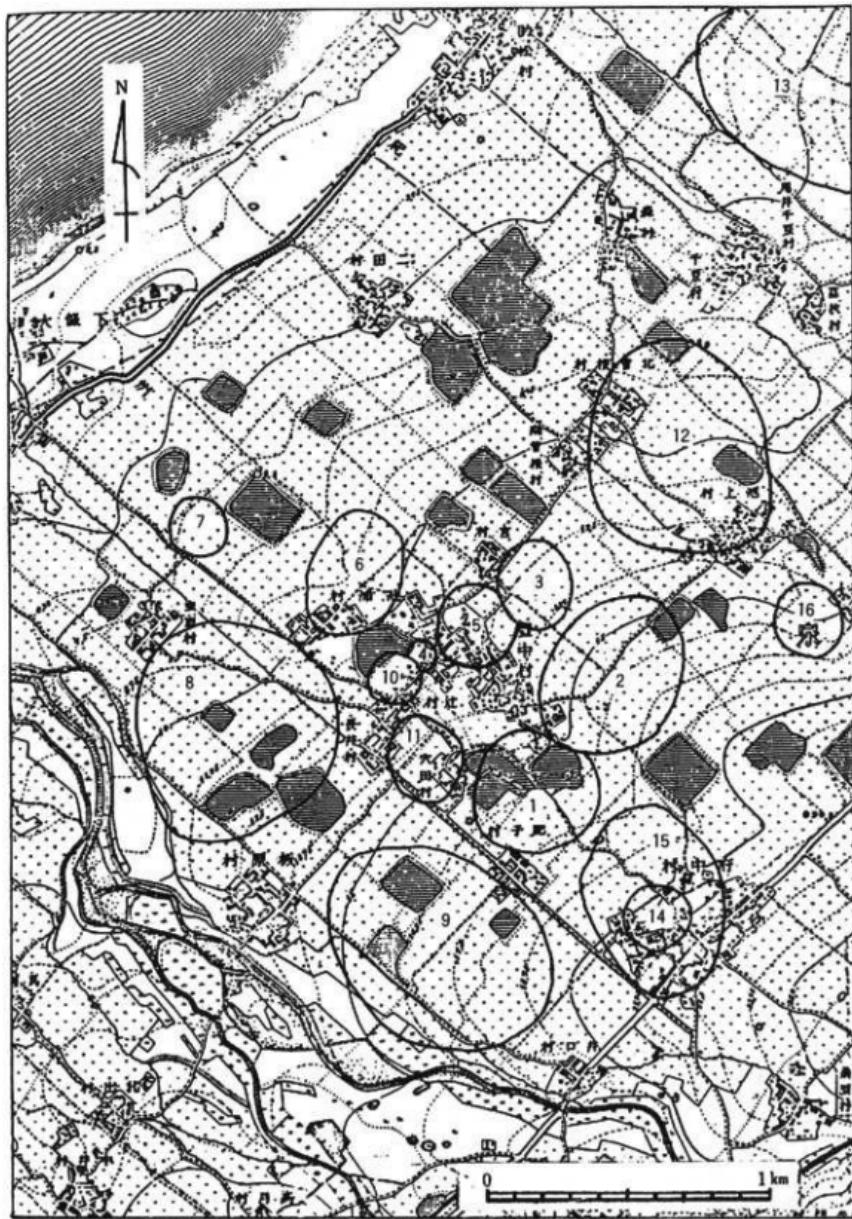
現在泉州沖の新空港建設計画による交通道路の整備、宅地造成による開発などに伴い埋蔵文化財の発掘調査が各所で行なわれ、新しい発見が次から次へと報告されている。

古池遺跡昭和55年度の発掘調査結果を報告するにあたり、泉大津市内を中心にして、北側は高石市・堺市、東側は和泉市、南側は岸和田市に所在する各遺跡の概略を時代順に紹介してみる。

### 旧石器時代

昭和21年に群馬県新田郡笠懸村阿左美岩宿において、相沢忠洋によりヨーロッパの旧石器によく似た遺物が発見された。昭和24年に明治大学が発掘調査を行なった結果、無遺物層と考えられていたローム層から、石器だけの文化層が発見され、日本においても旧石器時代（無土器文化）のあることが確認された。

日本における旧石器時代は、約10万年前から1万2000年前までの間で、火山灰が堆積した洪積世の時期である。この時期は狩猟採集の時期で、人々は一定の領域を移動していたようで、住居跡も少なからず発見されている。



1. 古池遺跡 2. 豊中遺跡 3. 七ノ坪遺跡 4. 穴師小学校校庭遺跡 5. 穴師遺跡 6. 池浦遺跡 7. 東雲遺跡  
 8. 虫取遺跡 9. 板原遺跡 10. 穴師藻師寺跡 11. 穴田遺跡 12. 池上曾根遺跡 13. 大圓遺跡 14. 和泉国府跡  
 15. 府中遺跡 16. 伯太北遺跡

第2図 遺跡分布図

現在のところ泉大津市では、この時代の遺物の発見はない。隣接する和泉市大野町において、昭和40年に府立泉大津高校地歴部が発掘調査を行なった結果、サヌカイト製のナイフをはじめ石核、剝片約30個を検出した。<sup>①</sup> 調査場所は大床遺跡と名付けられ、現在は開墾が進んで果樹園になっている。付近は海拔390mの高所で、急傾斜のけわしい地形である。

高石市大園遺跡から後期の翼状剝片<sup>②</sup> 1点、終末期から縄文草創期・早期にかけての有舌尖頭器の出土も<sup>③</sup> 1点ある。和泉市伯太北遺跡から有舌尖頭器とナイフ形石器の出土がある。和氣遺跡においても翼状剝片<sup>④</sup> が出土している。その他に、堺市野々井遺跡、岸和田市琴山遺跡、葛城山頂遺跡、海岸寺山遺跡、西山遺跡などがこの時代に属すると思われるが、ただ石器や剝片の出土だけに問題点もある。

### 縄文時代

縄文時代は旧石器時代に続く時代であり、日本で最初の土器文化である、約1万2000年前から約2300年前までの時期である。関東地方には数多くこの時代の遺跡は見ることができるが、近畿地方においては比較的に少ない。

泉大津市内では豊中・古池遺跡（古池遺跡上池部分）より中期後半の土器片が出土している。<sup>⑤</sup> 板原遺跡においては「中津式」に対応する時期とそれに近い時期の、波状口縁をなす太い沈線をめぐらす深鉢形土器口縁片が1点づつと、底部片が1点出土している。古池北遺跡、虫取遺跡においてもこの時代の土器の出土がある。

和泉市では信太山丘陵から前期の打製石匙、伯太北遺跡から後期の土器、府中遺跡から石棒・石鎌や後期中葉の土器、池上遺跡から後期に属する内側に肥厚ぎみの波状口縁部を持つ深鉢形土器の破片1点、晚期と思われる口縁部直下および肩部に低い貼付刻み目凸帯を施す粗製土器片<sup>⑥</sup> 1点が出土している。<sup>⑦</sup> 岸和田市においては春木八幡山遺跡から後期の土器が出土している。他に箕土路遺跡、西山遺跡、高石市大園遺跡、泉佐野市三軒屋遺跡、岬町淡輪遺跡、堺市四ツ池遺跡などがある。

### 弥生時代

稲作農耕と金属器使用に代表されるのが弥生文化であるが、前期においては堺市四ツ池遺跡のように、磨製の石庖丁や石鎌の使用していたことが出土によりわかる。が鉄器の普及によりしだいに石器具の使用は少なくなっていた。北九州に始まったこの文化はやがて近畿地方にも伝播した。四ツ池遺跡では縄文晩期の土器に粗痕がみとめられることから、より早くその文化を取り入れ、和泉における最初の米作りを行なったと考えられる。

泉大津市池浦遺跡は前期中段階に出現した集落で、低位段丘に位置し、人工的V字溝で住居区を限定していたようである。中期には集落の規模は縮少される。虫取遺跡においても前期の土器の出土がある。<sup>⑩</sup>曾根から和泉市池上におよぶ池上・曾根遺跡は前期から後期にかけて「ムラ」として發展しながら継続していった遺跡である。<sup>⑪</sup>日本でも有数の弥生時代集落である。

前期に始まる遺跡として、堺市諏訪森遺跡、鳳東遺跡などが、また中期から始まるのは、高石市大園遺跡、和泉市府中遺跡、和氣遺跡、岸和田市田治米遺跡などがある。後期になると丘陵部にも集落が作られるようになり、これを「高地性集落」と呼び、和泉市觀音寺山遺跡、惣ノ池遺跡<sup>⑫</sup>がこれに相当する。

なお泉大津市内の古池遺跡要池から、大阪府教育委員会の発掘調査により、有鉤銅鏡の出土が1個ある。

### 古墳時代

4世紀から7世紀の時期で、墳墓の造営が地域的政治集団の形成を物語り、古代国家の確立の一時期である。この時代は古墳を中心として前期・中期・後期の3期に分けられる。泉大津市においては現在のところ古墳は見あたらないが、以前には塚らしいものが存在していた可能性がある。

前期古墳としては和泉市黄金塚古墳が有名である。後円部に3個の粘土椁を持つ前方後円墳で、中央の粘土椁から景初3年（中國三国時代の魏の年号）の銘のある画文帶神獸鏡を出土している。岸和田市摩湯山古墳、久米田古墳群、また前期から中期にかけての和泉市丸笠古墳がある。中期古墳としては濠をめぐらした帆立貝式の墳丘を持つ和泉市貝吹山古墳や堺市百舌鳥古墳群のような巨大古墳がある。後期古墳は高石市富木車塚、和泉市信太山千塚、堺市陶器千塚をあげることができる。

集落遺跡としては、泉大津市内で豊中遺跡、古池遺跡、七ノ坪遺跡、東雲遺跡がある。七ノ坪遺跡においては集落跡とともに弥生時代の墓形態の1つである方形周溝墓や土壙墓がこの時代に入っても造られている。<sup>⑬</sup>東雲遺跡は海岸部に近い遺跡で、5世紀頃の竪穴住居跡2軒と井戸1基が検出されている。遺物散布地としては板原遺跡、虫取遺跡がある。特に弥生時代からこの時代にかけて続いたと思われる遺跡に豊中遺跡、古池遺跡、七ノ坪遺跡、和泉市惣ノ池遺跡、伯太北遺跡がある。七ノ坪遺跡の墓形態でもわかるように、弥生時代からの系譜を引く方形周溝墓を作ると集団と、黄金塚古墳や丸笠古墳を築いた集団とは異なるものと思われる。

### 歴史時代（奈良・平安）

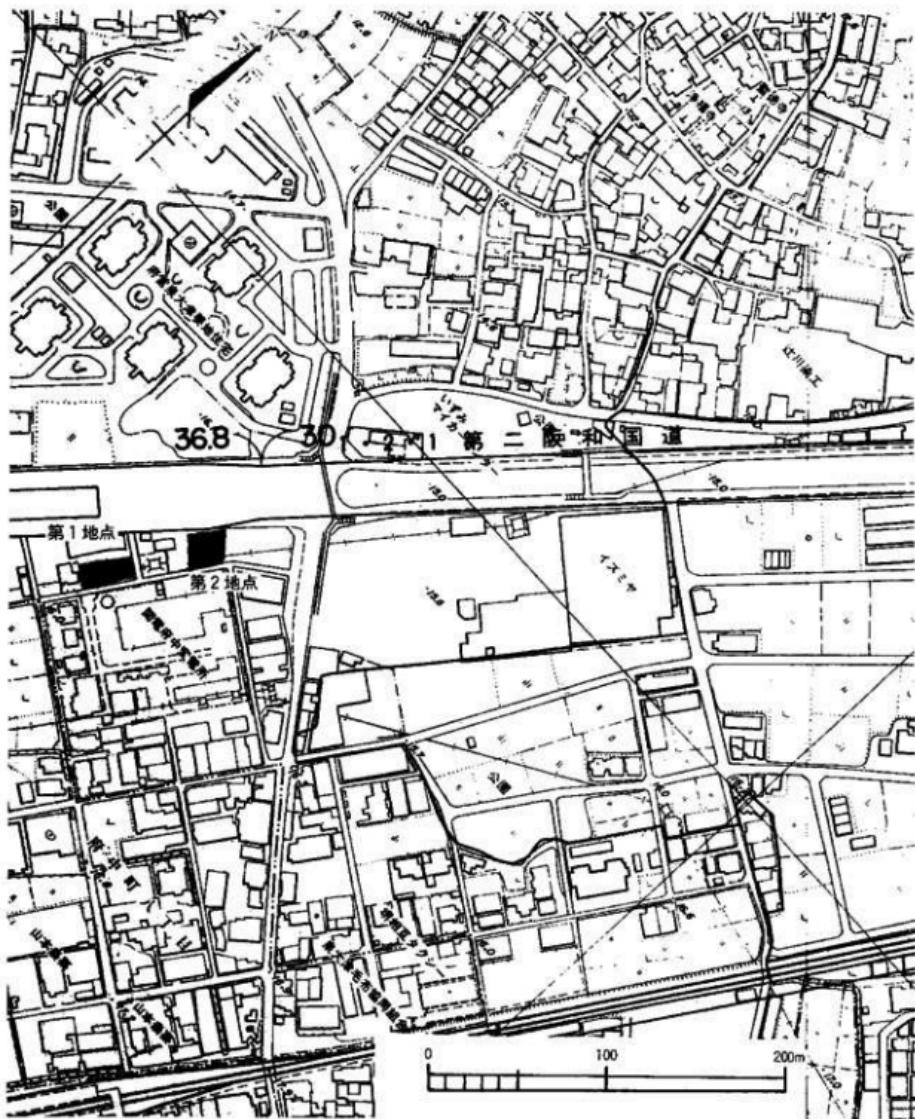
泉大津市東雲遺跡ではこの時代に相当する堀立柱建築跡が10数棟検出されている。<sup>⑩</sup>これらは奈良時代から鎌倉時代初期までの間に、何度も建てなおされていったことが、建物の主軸方向が異なっていることや重複していることで判断できる。豊中遺跡においては平安時代後期の灰釉陶器や黒色土器が井戸から出土している。<sup>⑪</sup>宝龜年中に創建されたと伝わる穴師薬師寺跡付近や豊中遺跡内から平安時代末以降の瓦が出土している。豊中遺跡内に「大福寺」と云う小字名が残っており、平安時代末以降の出土瓦と結びつく可能性もある。

和泉市においては、和泉国府が置かれていた。また奈良時代の創建と思われる安楽寺があり、この寺は承和6年（839）に国分寺となる。<sup>⑫</sup>松尾寺からも奈良時代の瓦が出土している。また和泉寺、池田寺、坂本寺、信太寺もこの時代に属するものである。

### 中世（鎌倉・室町）

泉大津市内においての中世は平安時代同様問題点が多いが、東雲遺跡において鎌倉時代初期に至る可能性のある堀立柱建築跡が検出されている。古池遺跡においても鎌倉時代の倉庫跡が発見されている。今回の調査においても、第1地点で鎌倉時代に相当すると思われる建物跡が2軒検出されてはいる。豊中遺跡においても種々の形態の井戸が数多く確認されており、今後の発掘調査により明確な構造も発見され、泉大津市における中世が解明されるであろう。遺物散布地としては、穴田遺跡、板原遺跡、虫取遺跡、穴田師社遺跡がある。

<sup>⑬</sup>和泉市和氣遺跡は大量の中世遺物を出土した大規模の中世住居跡遺跡である。 (楠山)



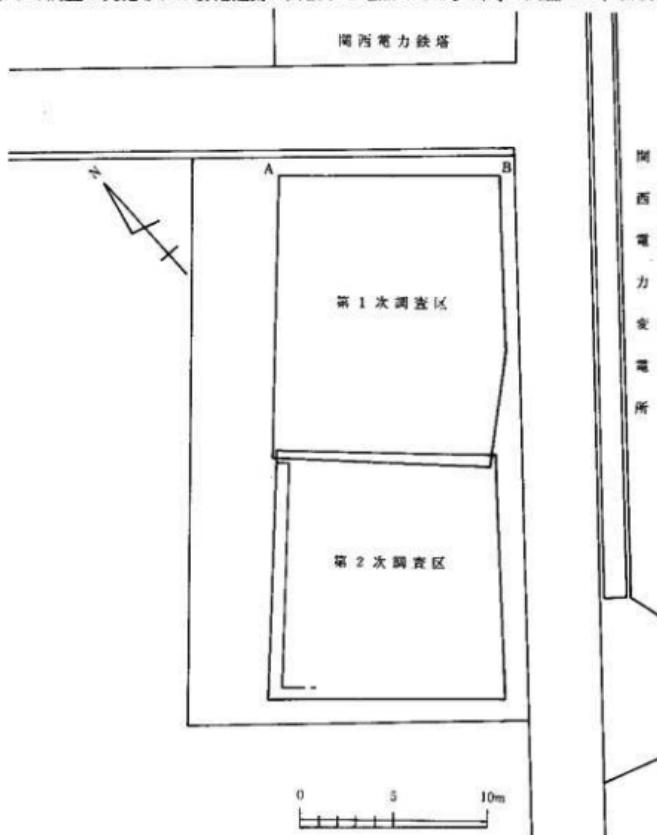
第3図 調査地点図

### 第3章 調査結果

昭和55年度の発掘調査報告とするのは、古池遺跡の2ヶ所（第3図）の地点で実施した発掘調査の概要である。以下地点ごとに記述を行なう。

#### 第1地点 泉大津市穴田51-2（第4図）

関西電力の鉄塔建て替えに先立つ発掘調査である。本調査地点は、昭和49年度に大阪府教育委員会によって調査が実施された要池遺跡に隣接する地点である。当時の調査では、古墳時代前



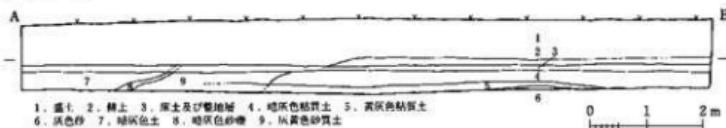
第4図 第1地点調査区域平面図

期の河川が発見され、多量の土師器が出土するとともに有鉤銅釧が検出されている。

調査は、最初掘削用重機により土砂の除去を行ない、その後人力により掘削を実施した。調査範囲は約300m<sup>2</sup>である。

### 層序（第5図）

遺構面までの各層は、盛上（60cm）耕土（20cm）床土及び整地層（20cm）暗灰色粘質土（20～30cm）である。整地層は、中・近世に形成されたものと思われるが、土師器・楕が含まれていた。（41～45）



第5図 第1地点北壁断面図

### 遺構（第6図）

検出した遺構は、ピット・溝・円形落ち込みなどである。

#### ピット

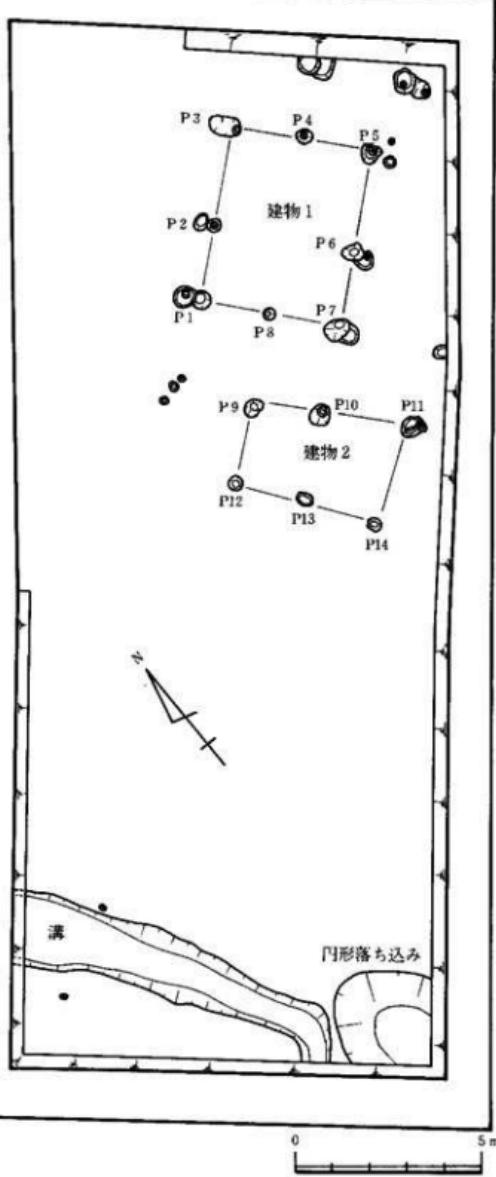
東半分に見られ、一定の間隔をもって並んでいるものもある。規模は直径15cm～60cm、深さ10cm～40cmを測る。堆積土は灰色砂質土もしくは灰茶色砂質土である。2間×2間と1間×2間（？）の掘立柱建物（建物1・2）が復元できるが、別な形の建物になる可能性もある。土師器や黒色土器などが出土している。

建物1 2間×2間の規模を有し、主軸はN50°E（磁北）である。桁行約4.7m、梁行約3.8mで、面積は約17.9m<sup>2</sup>である。柱間は桁行2m+2.7m、梁行1.9m+1.9m、柱穴は直径40cm～60cm、深さ10cm～30cmを測る。P2・5・7には川原石を置き根石としており、P6には直径15cm位の柱根が遺存していた。

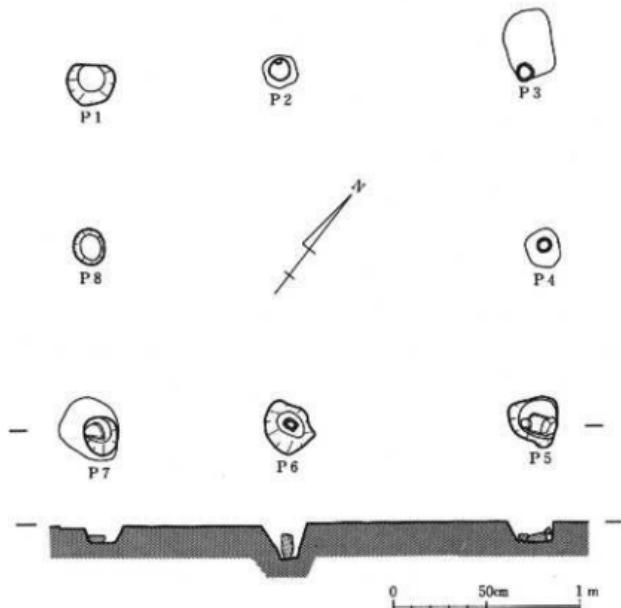
建物2 1間×2間（？）の規模を有し、桁行約4m、梁行約2.1mで南東端の梁行はやや広がる。調査範囲をはずれるので、桁行2間は、これ以上のびる可能性がある。P14には根石が置かれていた。この遺構を建物と考えるには、疑問もあるが一応建物としておく。

#### 溝

調査地の西部で検出した幅80cm～210cm、深さ5cm～20cmを測るものである。流路は、ほぼ南北から北へのびるが、南端では大きく西へ曲がる。溝内堆積土は、灰色砂が少し混る灰色粘土で、須恵器甕（1）・杯蓋（2）・杯身（3～5）・土師器（6・7）・縁輪陶器（8）・黒色土器が出土した。



第6図 第1地点遺構図



第7図 第1地点建物1遺構図

#### 円形落込み

南端で検出した。2.5m×2.5m、深さ70cmを測るものである。調査地からはずれるため全体の形状は不明であるが、円形状を呈するものと思われる。堆積土は、上部が灰茶色砂質土、下部が灰色粘土であった。遺物として、瓦器椀（14～16）・瓦質小皿・土師質小皿（17～19）などが出土した。

建物1の北部で遺構の存在する土層（黄灰色粘質土）と異なる土層（灰黄色砂質土）がみられ、土師器甕（20）や木片が含まれていた。

#### 遺物（第8図）

##### 土師器（6・7・9～13・20）

甕（6・7） 平底で口縁部は短かく外上方へのびるものである。

椀（9） ふんばつた高台の付く底部より、まっすぐ外上方へのび、端部は丸い。底部外面に指圧痕が認められる。

**杯 (10~13)** 平底であるが、(10) は丸味をおびる。

**甌 (20)** 口頭部は短かく「く」の字に屈曲、外上方へのびて、端部は上方へつまみあげ、端面には凹線が巡る。体部は球形になるものである。庄内式土器である。

#### 須恵器 (1~5)

**鉢 (1)** 広口で短かく外反する口縁部に、わずかに張り出した肩部からゆるやかに、高台をもつ底部にいたる。

**杯蓋 (2)** 上面中央がわずかに隆起する宝珠つまみを有する。器高は高く、頂部は平らで、口縁部は屈曲している。Ⅳ型式3段階である。

**杯身 (3~5)** (3) は器高が高く、(2) の杯蓋とセット関係にある。Ⅳ型式2段階のものである。(4・5) は器高が底く、口径は大きくなる。Ⅳ型式4段階のものである。<sup>⑩</sup>

#### 綠釉陶器

**椀 (8)** 浅い器形のもので、口縁部は大きくひろがり、やや外反する。貼り付け高台をもつものである。

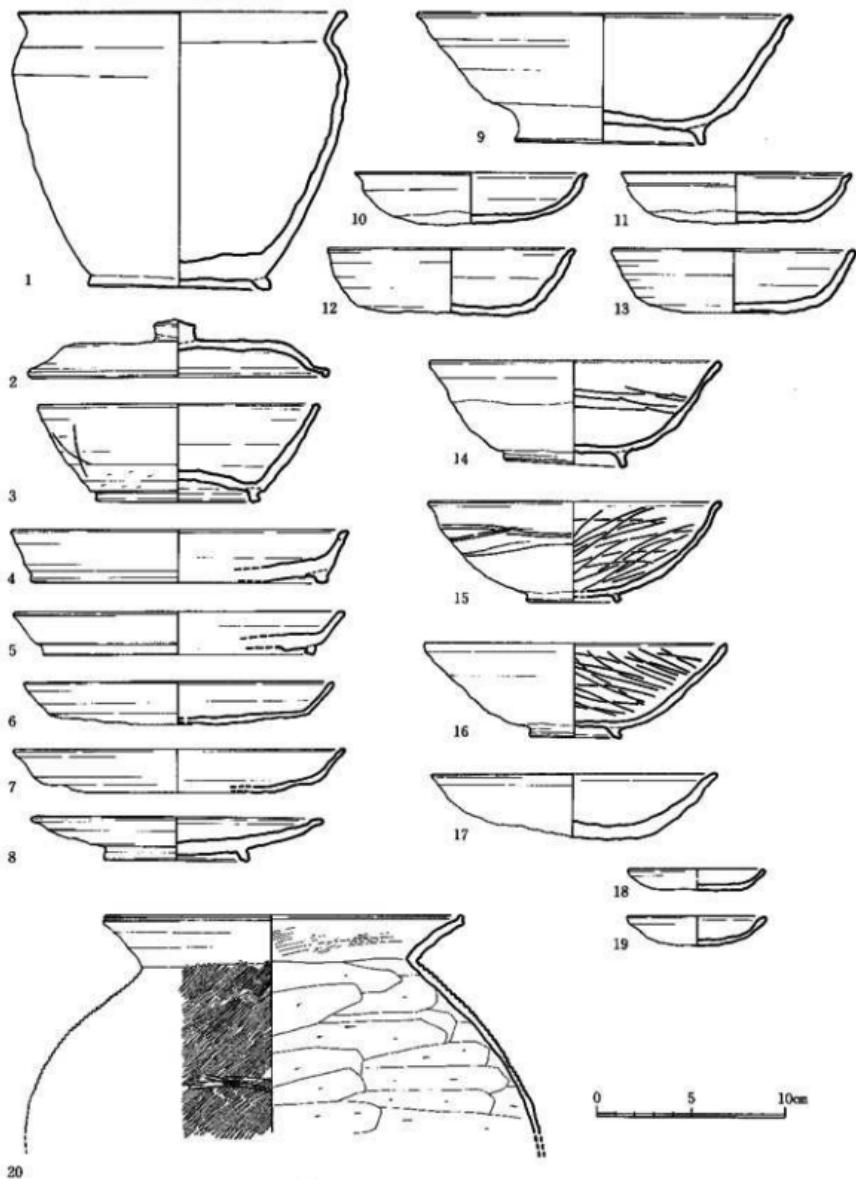
#### 瓦器

**椀 (14~16)** 断面方形の貼り付け高台に、外上方へゆるやかに内湾する深みのある体部のもの(14・16)と口縁部がやや外反気味になるもの(15)とがある。

#### 土師質 (17~19)

**皿** 丸味のある底部から外上方へまっすぐのび、「口縁部はやや外反する大皿 (17) と、体部は内湾し、口縁端部が丸味をおびる小皿 (18・19) がある。

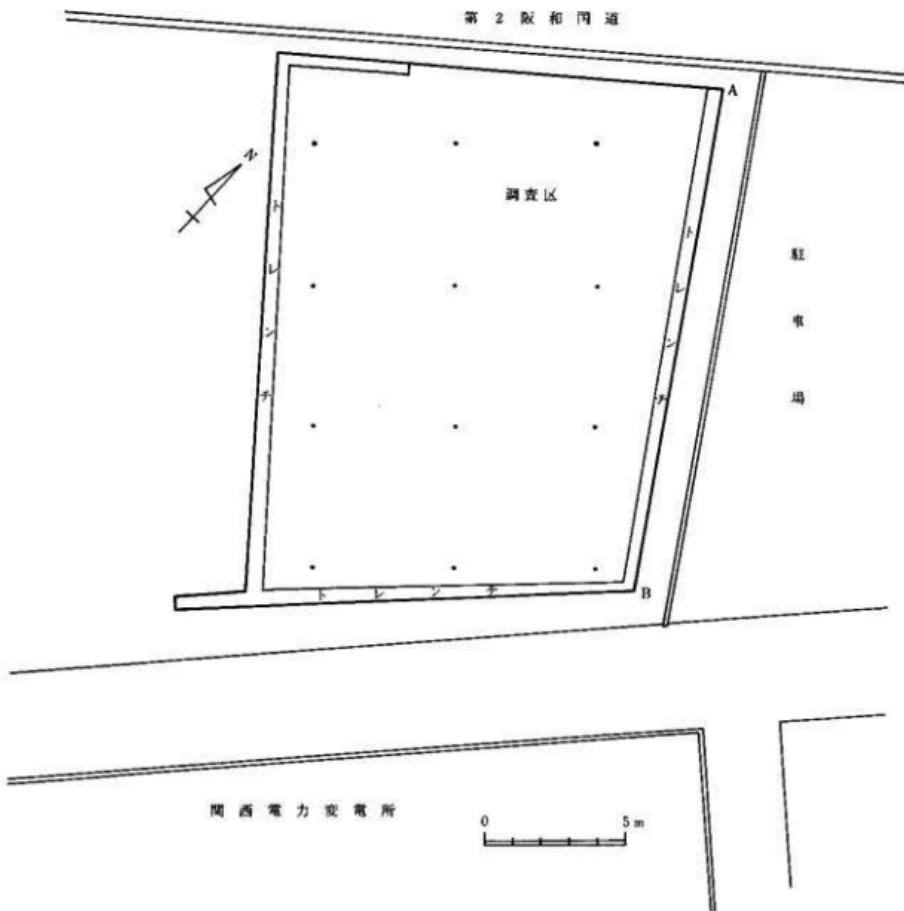
(坂口・佐藤)



第8図 第1地点出土遺物

## 第 2 地 点 泉大津市池浦514--1 (第 9 図)

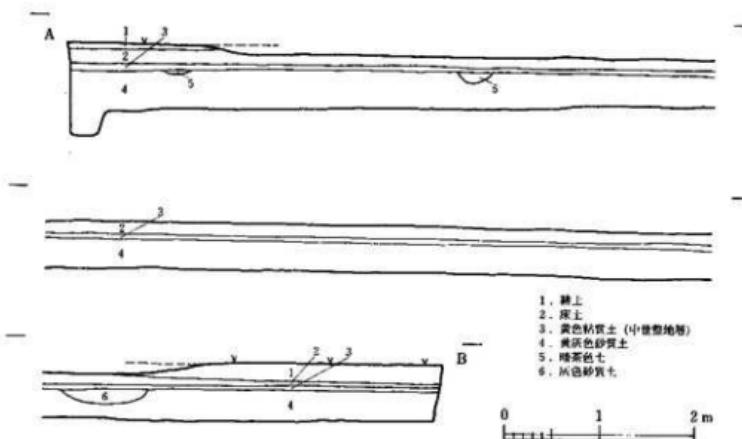
住宅建設に先き立つ調査である。本調査地点は第1地点の北東約70mに位置し、第二阪和国道内の調査で、遺構が確認された地点に隣接する。調査面積は244m<sup>2</sup>である。



第 9 図 第 2 地点調査区域平面図

## 層序 (第10図)

層序は、耕土 (20cm)、床土 (5~12cm)、中世整地層 (5cm) で、その下は黄灰色砂質土となり、この層の上面で遺構が確認された。



第10図 第2地点北壁断面図

## 遺構 (第11図)

検出した遺構は、溝・ピット・土壤状遺構である。

### 溝

3条の溝を検出した。全て平行しているが、途切れている。溝-1・溝-2・溝-3とした。  
溝-1 規模は幅25cm、深さ5cm~10cmを測り、断面は浅いU字形を呈する。溝内堆積土は、暗茶色土が全体に見られ、遺物は土師器片が少量含まれていた。

溝-2 溝-1と同様幅25cm、深さ5cm~10cmの浅いU字形を呈する溝である。溝内堆積土は、暗茶色土で、少量の土師器片が出土した。

溝-3 幅75cm、深さ10cm~20cmを測り、断面U字形の溝である。堆積土は、上部が灰色砂質土、下部が灰色粗砂で、瓦器・瓦質小皿・土師質小皿の小破片が出土した。

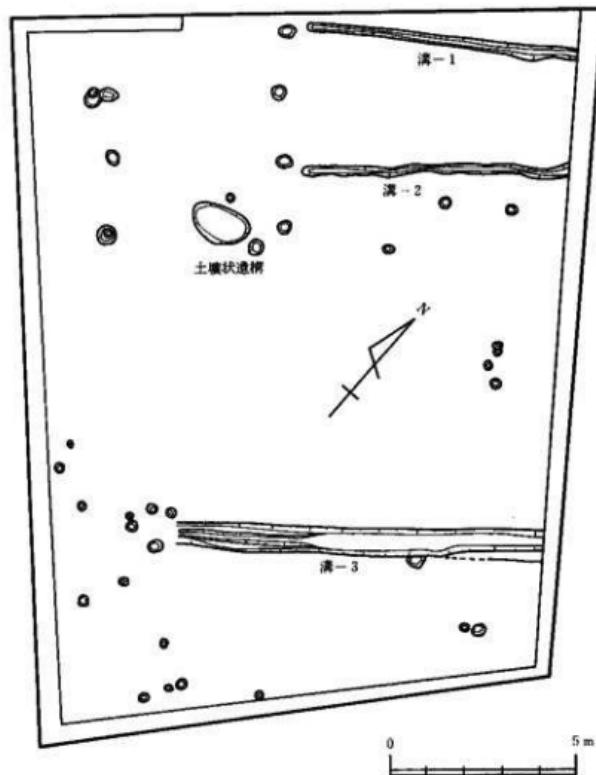
### ピット

検出した数量は30数個を数え、一列に並ぶものも見られたが、建物を復元するにはいたらなか

った。規模は、直径20cm～50cm、深さ5cm～15cmを測る。堆積土は、灰茶色土で、遺物は検出されなかった。

#### 土壤状遺構

溝-2の先端近くに位置する。規模は縦1.6m、横1m、深さ10cmを測り、やや橢円形を呈する。堆積土は灰色砂質土が全体に見られ、遺物は検出されなかった。  
(坂口・佐藤)



第11図 第2地点遺構図

## 第4章 ま と め

第1・2地点は古池遺跡に属するが、昭和49年度の大阪府教育委員会による、第二阪和国道内調査では要池遺跡と呼ばれていた。名称の不統一による困亂が生じているが、その後の調査及び地形的環境から考えて、古池遺跡とすることにした。

この付近は、和泉国府跡に近く、第二阪和国道内の調査では鎌倉時代の建物跡が検出されているので、今回の調査では、それに関連した造構の検出を期待したのであるが、調査範囲が狭いということもあって、明確な性格の造構として把握することは不可能であった。今後の調査に期待すること大である。しかし第1地点での掘立柱建物は、時期が不明であったが、上記造構と関連するものであるかもしれない。

(坂口)

(引用文献)

- ① 灰樹 薫氏の御教示を得た。
- ② 「和泉市史」 第一巻 和泉市編纂委員会 1965・10
- ③ 「大園遺跡発掘調査概要」 高石市教育委員会 1977・3
- ④ 「大園遺跡・助松地区第一次発掘調査報告書」 豊中・古池遺跡調査会 1979・3
- ⑤ 「利久」 和氣遺跡調査会 1979・3
- ⑥ 「豊中・古池遺跡発掘調査概報 そのⅢ」 豊中・古池遺跡調査会 1976・3 の「第3章歴史的環境」において記述はされているが、細片のためか報告はない。
- ⑦ 「板原遺跡試掘調査報告」 豊中・古池遺跡調査会 1977
- ⑧ 「府中遺跡発掘調査概要Ⅱ」 和泉市教育委員会 1978
- ⑨ 「池上遺跡・第2分冊土器編」 大阪文化財センター 1979・3
- ⑩ 「岸和田市春木八幡山遺跡の研究」 岸和田市教育委員会 1965
- ⑪ 「淡輪遺跡発掘調査概要」 大阪府教育委員会 1979・3
- ⑫ 中井貞夫 「泉大津市池浦遺跡発掘調査概要」「節・香・仙」第22号 大阪府教育委員会 1972
- ⑬ 大阪府教育委員会の調査による。
- ⑭ 石神 怡 「池上弥生ムラの変遷」「考古学研究」第22巻4号 1977・3  
酒井龍一 「池上遺跡・そのムラの生活」「攝河泉文化資料」第5号～第17号 摂河泉文庫
- ⑮ 「観音寺山弥生集落調査概要」 観音寺山遺跡調査団 1968
- ⑯ 「信太山遺跡調査概報」 信太山遺跡調査団 1966  
『鶴山地区信太山遺跡 その2』 和泉市教育委員会 1970
- ⑰ 「七ノ坪遺跡発掘調査概要」 大阪府教育委員会 1974・3
- ⑱ 「泉大津市東雲遺跡見学会資料」 豊中・古池遺跡調査会 1977・6
- ⑲ ⑯と同じ
- ⑳ 「豊中遺跡発掘調査概要Ⅲ」 泉大津市教育委員会 1979・3
- ㉑ 「和泉丘陵遺跡分布調査報告書」 和泉丘陵遺跡分布調査会 1977・3
- ㉒ 「池田寺跡発掘調査現地説明会資料」 大阪府教育委員会 1979・3
- ㉓ 「観音寺跡(信太寺跡)発掘調査現地説明会資料」 大阪府教育委員会 1977・3
- ㉔ ⑯と同じ
- ㉕ 「陶邑Ⅱ(大阪府文化財調査報告書第29輯)」 大阪府教育委員会 1977・3
- ㉖ 「堀池遺跡発掘調査概要Ⅰ」 大阪府教育委員会 1975・3
- ㉗ ㉖と同じ

# 遺物観察表

## 須恵器

No.	法 量		調 整	胎土・色調	備 考
	口 径	器 高			
1	17.4cm	14.9cm	口縁部及び脚部の内外面は横ナデ調整。 底部内面は不整方向のナデ調整。 底部外面はヘラ切り痕。	少量の砂粒・石英粒を含む粘土使用。 灰褐色	鉢
2	16cm	3cm	剥離のため調整痕は認められないが 横ナデ調整であろう。	少量の砂粒を含む粘土使用。 茶灰色	杯基 つまみは貼り付け。
3	15cm	5.2cm	胴部内外面は横ナデ調整。 脚部外面下部はヘラ削り。 底部内面はナデ調整。	少量の砂粒を含む粘土使用。 灰褐色	杯身 胴部外面に「X」のヘラ 記号
4	18cm (復)	2.8cm	底部外表面のヘラ切りを除いて横ナデ 調整。	少量の砂粒を含む粘土使用。 灰白色	杯身
5	17.6cm (復)	2.3cm	胴部内外面横ナデ調整。	細砂を多量に含む粘土使 用。 灰白色	杯身

## 土師器

No.	法 量		調 整	胎土・色調	備 考
	口 径	器 高			
6	16.4cm (復)	2.3cm	胴部は横ナデ調整であるがそれ以外 は剥離のため不明。	1mm程度の砂粒が少し混 じる。 茶灰色	皿
7	17.6cm (復)	2.3cm	内面及び胴部外表面は横ナデ調整。 底部は剥離のため不明。	精良な粘土を使用。 茶灰色	皿

## 綠釉陶器

No.	法 量		調 整	胎土・色調	備 考
	口 径	器 高			
8	15.6cm (復)	2.3cm	内外面とも横ナデ調整。	精良な粘土使用。 内面に淡緑色の斑がかかる。	地肌は灰茶色

## 土師器

No.	法 量		調 整	胎土・色調	備 考
	口 径	器 高			
9	20cm (復)	7cm	内外面は横ナデ調整。 底部外面上に擦痕がある。	精良な粘土を使用。 茶灰色	瓶

No	法 量		調 整	胎 土・色 調	備 考
	口 径	器 高			
10	12.4cm	2.8cm	内面及び胴部外面は横ナゲ調整。 底部外面に指圧痕が残る。	精良な粘土使用。 茶灰色	杯
11	12.4cm	2.8cm	内面及び胴部外面は横ナゲ調整。 底部外面に指圧痕が残る。	精良な粘土使用。 茶灰色	杯
12	13.2cm	3.5cm	胴部内外面は横ナゲ調整。 底部外面は剥離のため不明。 底部内面はナゲ調整。	精良な粘土使用。 淡黄褐色	杯
13	13cm	3.5cm	胴部内外面は横ナゲ調整。 底部外面は指圧痕が残る。 底部内面はナゲ調整。	精良な粘土使用。 黄灰色	杯

### 瓦 器

No	法 量		調 整	胎 土・色 調	備 考
	口 径	器 高			
14	15.6cm	5.6cm	胴部外面下半分及び底部外面に指圧痕上にナゲ調整。 内面、胴部外面上部及び高台は横ナゲ調整。	砂粒を少量含む。 精良な粘土使用。 暗灰色	碗
15	15.6cm (復)	5.3cm	内面、胴部外面上部及び高台は横ナゲ調整。 胴部外面下半部に指圧痕。	砂粒を少量含む。 精良な粘土使用。 暗灰色	碗
16	16cm (復)	5cm	内面、胴部外面上部及び高台は横ナゲ調整。 胴部外面下半部に指圧痕。	砂粒を少量含む。 精良な粘土使用。 暗灰色	碗

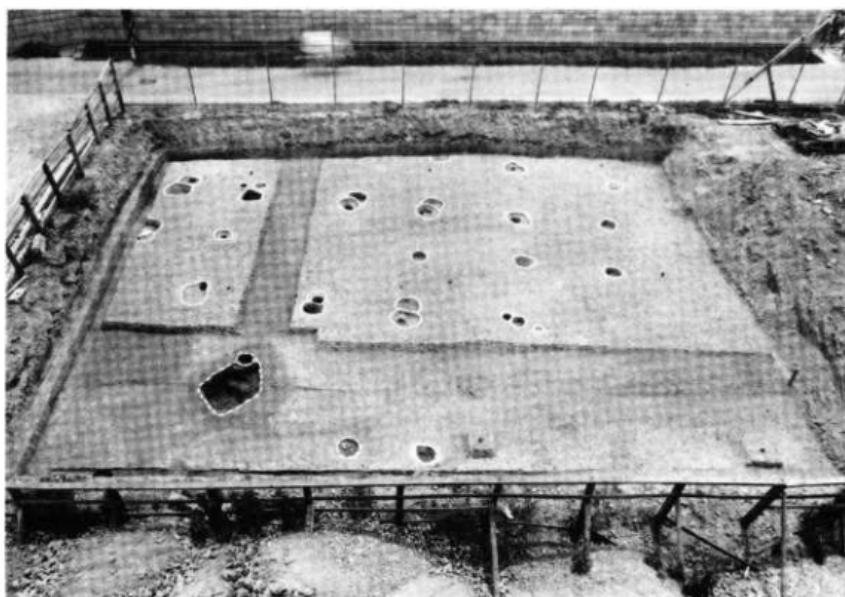
### 土師質

No	法 量		調 整	胎 土・色 調	備 考
	口 径	器 高			
17	15.2cm	3.5cm	内面及び口縁部は横ナゲ調整。 体部外面に指圧痕。	砂粒を少量含む。 精良な粘土使用。 茶灰色	大皿
18	7.2cm	1.1cm	内面及び胴部外面は横ナゲ調整。 底部外面は指圧痕上にナゲ調整。	精良な粘土使用。 茶灰色	小皿
19	7.4cm	1.6cm	内面及び胴部外面は横ナゲ調整。 底部外面は指圧痕上にナゲ調整。	精良な粘土使用。 茶灰色	小皿

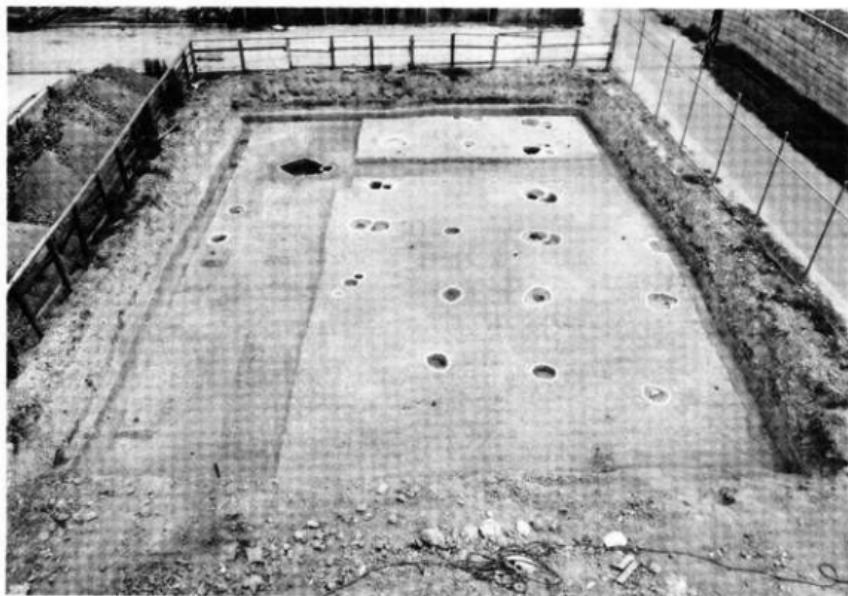
### 土師器

No	法 量		調 整	胎 土・色 調	備 考
	口 径	器 高			
20	19.1cm (復)	—	口縁部外面は横ナゲ調整で、内面 はその上に繊毛目。 胴部外面は細かい叩き目が施され、 内面は横ヘラ削り。	精良な粘土使用。 角尖石が残る。 暗茶色	斐 庄内式土器

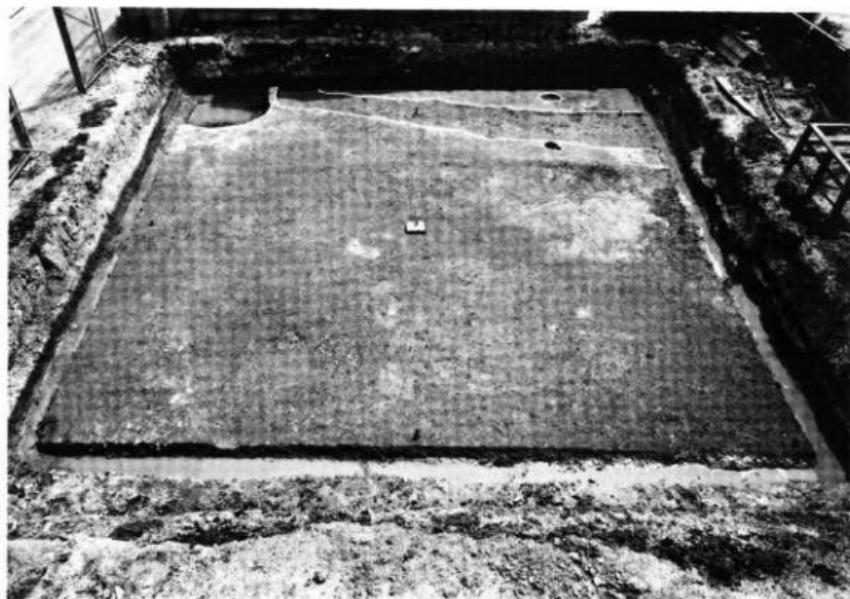
# 図 版



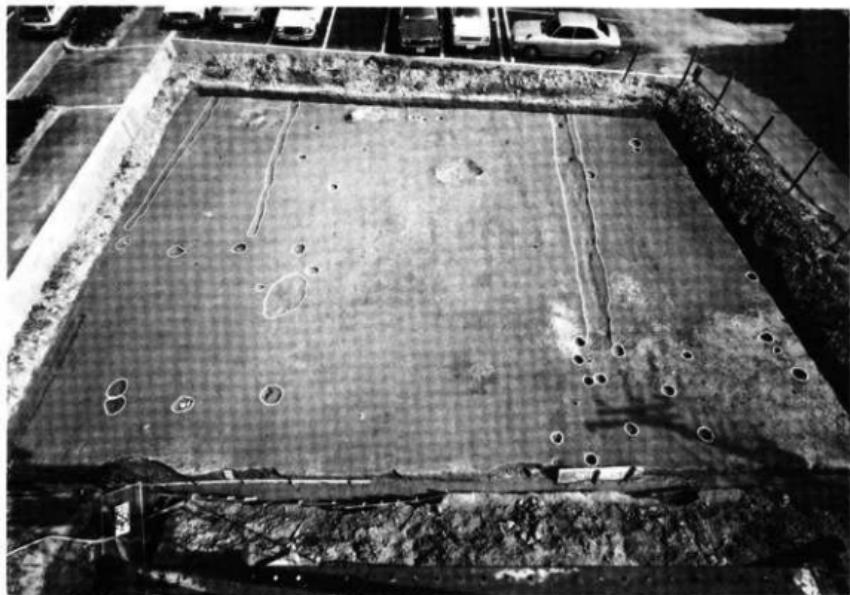
第1地点 全景 西より



第1地点 全景 南より



第1地点 全景 北より



第2地点 全景 南より



1



3



8



4



11



10



12



14



15



16



17



20

泉大津市文化財調査概要 6  
古池遺跡発掘調査概要 I

1981年3月

発行 泉大津市教育委員会  
編集 社会教育課  
泉大津市東雲町9番12号  
印刷 株式会社 中島弘文堂印刷所  
大阪市東成区深江南2丁目6番8号

